



プラネレポ

十月十二日(日)にプラネタリウム見学会と称して、川崎市青少年科学館の若宮崇令さんのもとを訪ねました。「市民とあゆむ自然博物館」をモットーとし、地域のボランティアが密接に関わっている科学館です。天文の場合には、番組の製作や解説に至るまで、ボランティアが参入しています。メガスター製作で有名な大平さんも、ここでのボランティアを通して若宮さんに育てられた1人です。若宮さんは、人材の発掘・育成から生涯教育、生涯活動という流れ、宇宙を愛する人間づくりを目指しています。

～川崎市青少年科学館訪問

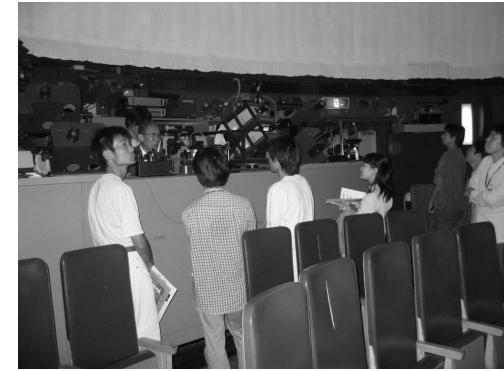


▲ダイヤルの並ぶコンソールと、ベテラン解説員の河原さん。

メンパーは、学生十四名、そして葛飾区郷土と天文の博物館の新井さんと根本さんでした。見学会は、館の説明、プラネタリウム見学、談話会、懇親会という流れでした。まず若宮さんに

館の概要を説明してもらった後で、プラネタリウムを見学しました。日曜の屋下がり、我々を除く見学者は三割程度でした。実は、我々の見学会のために解説者の亀岡さんは気合いが入り過ぎたのか、上映時間を大分オーバーしてしまいました。しかし、若宮さん曰く「時間は見学者との約束なので、時間オーバーは「法度」とは河原さんからの教えなのだそう。談話会では、天文普及との関わりを交えた各々の自己紹介を経て、議論の場となりました。とくに、天文専攻の学生に何が出来るか、最先端の天文学と市民の想像する天文学のギャップを減らすためにはどうしたらよいかなどの話題で盛り上がり、葛飾の新井さんからは観望会ボランティアに加えて教育普及ボランティアの募集計画が伝えられました。「天文学の結果だけでなく、そこまでの過程や研究者の人間性まで伝えたい」という若宮さん、この内容こそ天文専攻の学生が関わる内容なのではないでしょうか。

▲学生と科学館職員による議論の様子。天文学の普及について、様々な意見が出された。プラネタリウムの見学。投影機がひしめくコンソールに興味津々の参加者。



▲博士前期課程一年 金井陽子

続いて、プラネタリウム投影機本体およびマニュアル操作盤周辺を河原さんに説明してもらいました。かつて五島プラネタリウムの解説員だった河原さんは「上映後のこどもの眼の輝きが生きがい」なのだそう。惑星投影機、プログラムの要旨が書きさされた紙、たくさんの音楽CD、様々な操作ボタン…。このマニュアル感、使い勝手がとても良いそうです。

私は、川崎は一つの理想の形だと感じました。地域ボランティアと青少年科学館が非常に良い関係で、ここでの人材育成こそ生涯活動そのものである。しかし、ボランティア無しでは成り立たない人員不足の現状の裏返しでもあるのです。

今見学会にあたっては、館長である若宮さんのご好意によって特別に入場料を免除していただき、さらにプラネタリウム白書をいただきました。若宮さんならびに川崎市青少年科学館への感謝の気持ちをここに記します。

(名古屋大学 理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 天体物理学研究室 金井陽子)

From Tenpla-ML パニック!火星観望会

観望会イベントの対処あれこれ

国立天文台三鷹キャンパスでの観望会は学生が中心となって運営しています。昨年9月、そんな学生スタッフから投稿がありました。「今回の観望会ではもちろん火星。平日ということもあって、予想来台人数を800〜と見ていました。ところがなんと来台者数は推定2000人にも及び、その日の観望会は深夜2時半まで続いたといえます。それでも望遠鏡で火星を目の当たりにできた人は1200名ほど。わき起こった火星フィーバー。こんなうれし異常事態に全国各地の科学館のスタッフはいったいどう対処したのでしょか。

ふと見上げた夜空にひととき赤く輝く星。といえは勘のいい方はお察しでしょう。昨年夏に実に6万年ぶりともなる大接近をした火星です。今も探査機ですばらしい発見が続く火星。望遠鏡といわずともテレビや雑誌などでご覧になった方も多いのではないのでしょうか。昨年、そんな火星を見てみようとな全国津々浦々の天文台や科学館で火星観望会が催されました。ここでは天プラメンバーリングリストに寄せられた観望会現場の様子や観望会スタッフたちの奮闘ぶりを紹介することにしましょう。

今回は火星観望会に際して寄せられた投稿を紹介しましたが、今後も興味津々の天文現象は目白押しです。今年の目玉はなんといっても2大彗星の出現でしょう。だから今後もきっとこんなうれしい「観望会パニック」が待ち受けているに違いありません。そんなときにこの記事が、運営規模は問わず観望会を運営している、あるいはこれから始めるなんていう方々の参考になれば幸いです。

例えばこんな対処法!?

大阪市立科学館の場合を例に見てみましょう。同館の渡部氏によれば「最初から定員制にしています。往復はがきで応募してもらっています。届いたハガキが千枚。整理に3時間かかりました」とのこと。また、年二回の観望会の半分を火星接近時に割り当てるという思い切った対策も講じたそうです。さらに、観望会の際に参考になる次のような提案も。

- ・ 見せる人よりも整理する人を増やす。整理員に天文学の知識は必要ないので、地域住民を味方に付ける。
- ・ トイレの案内など会場案内図を配ること。
- ・ 行列待ちの人向けのアトラクションを考案すること。星探しゲーム等やつてみる。
- ・ 受付時間を限定してそれ以降はお断りすること。
- ・ 観望会指導員のコミュニティを作る。あるいは参加する。